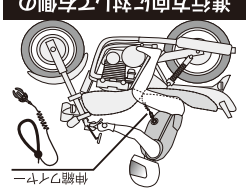
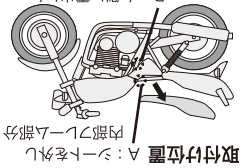
5-4 伸縮ワイヤー取付方法・位置

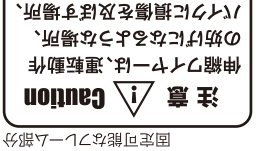
○伸縮ワイヤーの取付方法



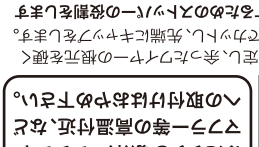
1 フレームにフロッグ
チェーンを巻き付けて長さを調節し、余った部分はカットします。



2 フロッグチェーンに伸縮ワイヤーを通します。



3 フロッグチェーンから出たワイヤーをレバーでピッタシ仮止めし、伸縮ワイヤーの長さを調節します。



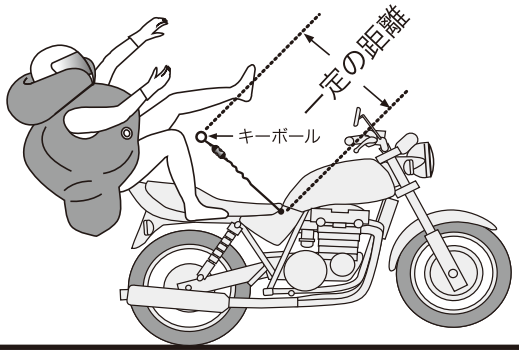
4 バイクに股がりスタンディング姿勢で、伸縮ワイヤーが伸びきった状態で長さを決めます。

注意 ⚠ Caution
伸縮ワイヤーは、運転動作の妨げになるような場所、バイクに損傷を及ぼす場所、引っ張られた際に外れたり抜けたりする場所、エンジンやマフラー等の高温部近、などへの取付けはおやめ下さい。

5 レーザッターでしかり固定し、余ったワイヤーの根元を硬く結び、2cm以上残した状態でカットし、先端にキャップをします。
結び目はワイヤーを抜けなくするためのストッパーの役割をします

⚠ 必ず結ぶ
1. 輪を作り　2. 輪に通す　3. 硬く結ぶ
隙間なく　2cm 以上残す　キャップ

6 シートをかぶせて完成です。



○バイクと共に、衝突・転倒しバイクと着用しているヒットエアー付ジャケットが一定の距離を離れない場合は作動しません。

○ヒットエアー付ジャケットは、膨張した気室以外の場所は、衝撃緩和の効果はありません。

○ヒットエアー付ジャケットを着用し、バイクから降車する際に、ワンタッチリリースの取り外しを怠り、一定の距離離れ、約30kg〜35kgの力（4-3 キーボックス〈P12〉参照）がかかった場合も、キーボールが抜け、作動しエアバッグが膨らんでしまいます。誤操作に十分注意して下さい。
誤操作防止のためワンタッチリリースの取付け・取外しは、バイクに股がった状態で行って下さい。

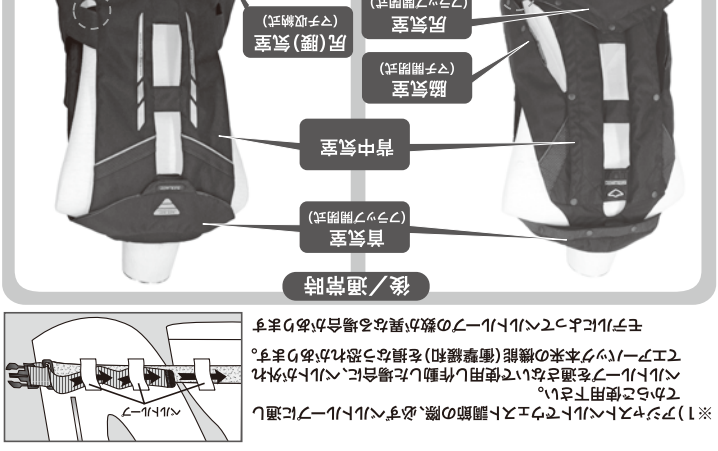
○一度作動したカートリッジボンベは使用できません。サイズ（容量）の合った未使用のものとお取り替え下さい。

6 作動時及び、作動後の注意

着用したヒットエアー付ジャケットが作動し膨らんだ状態になった場合、以下の点に注意して下さい。

1. ヒットエアー付ジャケットは、特に首を保護するため、膨らんだ際首周りに圧力がかかります。そのため、着用しているヘルメットのあごひもが取れにくくなったりする場合がありますが、その際はバックル等を外して下さい。
2. 現場の状況に合せて慌てずに、脱衣して下さい。
3. 事故等により現場が危険な場合、安全な場所へ避難してから脱衣して下さい。
4. 瞬時に膨らんだヒットエアー付ジャケットは、身体に多少の圧力がかかりますが、徐々に炭酸ガスが抜けていくようになっています。
事故により膨らんだ状態で車両に挟まれたり、圧迫をうける状態になっても落ち着いて行動して下さい。
5. 膨らんだ気室が、大きな衝撃や鋭利な障害物により破損した場合は、気室前部の炭酸ガスが直ぐに抜けてしまいます。
6. 注意 ⚠ 走行中において何らかの原因により誤って作動してしまった場合は、慌てず、すみやかに安全な場所へバイクを移動し、ヒットエアー付ジャケットを脱衣して下さい。そのまま走行しますと、膨らんだ気室等によって大きな風圧を受け、不安定な状態となり大変危険です。
7. 注意 ⚠ 作動の際、外傷の出来たヒットエアーは、取扱店や当方でメンテナンスチェックの上、カートリッジボンベを新しいものに取り替えて再びご利用下さい。
著しい外傷、部品破損の場合は、再生出来ない場合があります。
8. 注意 ⚠ ツーリングなどで一度作動したヒットエアー付ジャケットを、やむをえずお客様が再生させる場合は、以下の点に注意して下さい。
○ヒットエアーの外傷（キズ・穴）等がない事を確認する。
○作動した時に、エアバッグが膨らんだ事を確認する。
○予備のカートリッジボンベは、ジャケット指定のサイズ（容量）で未使用のカートリッジボンベである事を確認する。

上記を確認した上で、問題がなければ、お客様の責任に於いて再生して下さい。
異常がある場合は、正常に作動しない場合があります。
詳しい再生方法は"作動後の再生"P20〜23を参照して下さい。



※1）フックウエストベルトでウエスト調節の際、必ずベルトバックルに通してから使用下さい。
ベルトバックルを通さないで使用し作動した場合に、ベルトが外れてエアーバッグ本来の機能（衝撃緩和）を損なう恐れがあります。
モデルによってベルトバックルの数が異なる場合があります

※デザイン、形状等は写真と異なる場合があります